

研 究 論 集

第 十 九 卷

前 卷 目 次

番外謡曲 聖光寺について	三谷幸子	148	右から
芥川竜之介、西方の人、注解(一)	中野恵海	193	130
ドイツ文学と「若きヴェルテルの悩み」	斎藤芙美子	1	左から
アンコーナのチリアコ伝のために	久志本秀夫	17	
構造から見たオルガンの歴史と特性	久保田清二	31	
「生」の表現たる生命現象に就て	富田朋介	49	
ファッションのコミュニケーション	山本登美子	53	
インドネシア料理についての一考察	林崎つゆ	73	
<i>Micrococcus lysodeikticus</i> 細胞壁の化学構造	田中昭子	87	
訃報		118	
彙報		117	

訃報

品川三郎氏

相愛女子短期大学専任講師
相愛女子大学非常勤講師

病氣療養中の所、昭和四十六年七月三日脳脊髄膜炎にて逝去。氏は明治三十八年六月二十五日姫路市に出生、昭和七年三月東京音楽学校師範科を卒業、昭和十一年、大阪府池田師範学校教授に任ぜられる、昭和十七年十二月大阪府視学委員を拝命、二十六年三月大阪府箕面小学校教諭を経て三十五年四月相愛女子大学及び同短期大学講師に就任、大学では教科教育法、教職合奏、宗教音楽、短期大学では音楽の各教科を担当され今日に至った。

又氏は音楽教育研究に非常な熱意を傾けられ、長い教職生活の間には数々の著述、研究発表等の業績がある。昭和三十二年六月、音楽学会での「頭声発声における音声学的意義」と題しての研究発表、「児童発声」（昭和三十年、音楽之友社刊）、「発声と合唱（昭和三十五年、音楽之友社刊）」等の著述は氏の研究活動の一端を示すものである。又音楽教育の啓蒙の為にも挺身され、昭和二十九年から、三十四年に亘っては全国各地に開催された音楽教育研究会において、児童の合奏指導や講演を行われた。

水野佐平氏

相愛女子大学楽器資料室顧問

昭和四十六年十一月二日、近畿中央病院にて心臓衰弱の為逝去、行年八十才。氏は明治二十四年、徳島県勝浦町に出生され、十一才で琴作りの道に入られた。以来琴作職人として製作に心血をそそがれ斯道の大成者となられた。この間における氏の血のじむような努力は、筆舌をつくすものがある。大成せられた後も、今日稀な程の徹底した職人氣質と楽器製作に対する愛情と執念は、なお氏の老体の中に脈々と波打っていた。琴の製作及び販売の仕事に精勤された氏は戦

後の困乱期に伝統ある数々の名器が海外に流出されるのを憂え、私財を投じてこれら楽器の収集に努力された。私宅の一隅に「丹水会館」と称する展示場を建設され、こゝに自ら収集された楽器を展じ、愛好者や研究者の為に開放された。一方この間に氏は故宮城道雄氏とも親交を結ばれ、新しい楽器の開発にも鋭意を示された。その後、これら収集された楽器が単なる一個人の私有に帰することを惜んで自らのコレクションを音楽大学に寄贈し、更に幅広い活用を企てることを発意された。本学では、昭和四十二年氏より太助作等の俗箏、筑紫琴、琵琶、八雲琴、各種の三絃など三十点を越える楽器の寄贈を受け、これらは現在大学音楽学演習室に展示されている。同時に本学では氏に楽器資料室顧問を委嘱し、これら楽器の管理と補修に関する指導を仰いだ。又氏は国内のみならず海外へも目を転ぜられ、フランスのパリ高等音楽院附属楽器博物館を初めドイツ、オーストリアの博物館へも楽器を寄贈されて民間外交の見事な実績を果された。その業績は昭和四十三年勲六等单光旭日章として政府より評価され、波乱多き氏の生涯に燦然と輝いている。

こゝに氏の訃報を掲載するにあたって、氏の本学に対する厚意を謝し、哀悼の意を表する次第である。

彙報

一般教育・教職関係

(学部、短大共通)

○著書

岡 邦俊 教授

「浄土真宗とキリスト教」―付・現代と浄土真宗
昭和四十六年十一月出版、百華苑発行

○学会発表

岡 邦俊 教授

日本印度学仏教学会・学術大会にて講演
(昭和四十六年六月五日、於東京国立教育会館)
題目 「浄土教における超越と内在の論理」

○叙勲

橘 覚勝 元教授

先生には永年に亘る教育功勞の故を以て、「勲三等瑞宝章」の授勲の光栄に浴
されました。(昭和四十六年五月十二日)

《人事》

音楽学部関係

○異動

仲 芳樹 教授

昭和四十四年十月一日学部長に就任、昭和四十六年九
月三十日付をもって辞任。

斎藤 秀雄 教授
弦管打主任

昭和四十六年十月一日付にて図書館長に任命される。
昭和四十六年十月一日付にて、学部長に任命される。

○退任

橘 覚勝 教授 昭和四十六年三月三十一日付で定年退職。
木村 和子 助手 昭和四十六年九月三十日付で退職。

○新任

橋本 綾子 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 芸術担当

遠藤 茂子 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 英語担当

西川 泰次 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 音声学担当

堀 月子 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 音楽史 楽書講読担当

竹森 実蔵 非常勤講師 昭和四十六年九月十日付 音楽教育法担当

北山 隆 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 フルート担当

伊藤 公一 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 フルート担当

安部 圭子 非常勤講師 昭和四十六年四月一日付 打楽器担当

奥本 順子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 作曲理論担当

青柳 直子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 ピアノ担当

碓 英子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 ピアノ担当

川原 順子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 弦楽器担当

増田 勝 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 フルート担当

中村 茂子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 クラリネット担当
 中木村 邦子 非常勤助手 昭和四十六年四月一日付 打楽器担当
 木村 和子 非常勤助手 昭和四十六年十月一日付 弦楽器担当
 鳴海 順子 非常勤助手 昭和四十六年五月一日付 弦楽器担当

〔音楽学部昭和四十六年度開講科目・講義題目〕

() 内は講義題目を示す

〔一般教育科目〕

宗 教 岡 邦俊

人生と宗教
 仏教と人生(1)
 親鸞聖人の思想、信仰の特性
 (哲学とは何か思想史)

歴史 木場 集蔵
 (近代の作家・作品)

哲 学 海辺 忠治

文 学 吉田孝次郎

芸 術 橋本 綾子

法 学 中山 勲

心 理 学 糸魚川直祐

生 物 学 奥野 春雄

〔保健体育科目〕

体 育 講義 長野 孝男

体 育 実技 長野 孝男

〔外国語科目〕

英 語 久志本秀夫

ド イ ツ 語 斎藤美美子

フ ラ ン ス 語 木村 恵子

〔教職課程科目〕

教 育 原 理 秦 博

道 徳 教 育 の 研 究 秦 博

彙 報

〔共通専門科目〕

和 声 法 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

〃 〃 〃 鈴木 英明

〃 〃 〃 竹内 典子

〃 〃 〃 奥本 順子

対 位 法 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 大橋 博

西洋音楽史(1)

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史特講

西洋音楽史(2)

(ロシア東欧音楽史)

(現代の音楽)

(ワグナーの楽劇)

宗 教 音 楽 品川 三郎

比 較 音 楽 学 小野 功龍

宗 教 音 楽 北村 音彦

音 楽 音 響 学 徳丸 聡子

演 奏 解 釈 林 雄一郎

合 奏 唱 品川 三郎

器 楽 合 奏 長崎 照子

伴 奏 法 水谷 堅

ソ ル フ ェ ー ジ 榎 弘

〃 〃 〃 滝野 澄子

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

〃 〃 〃 大橋 博

〃 〃 〃 鈴木 滋子

音 楽 通 論 (M C 以 外)

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

大橋 博

仲 芳 樹

辻 井 英 世

佐 藤 允 彦

品 川 三 郎

梅 本 堯 夫

西 川 泰 次

大 森 栄 一

東 儀 祐 二

伊 奈 和 子

宮 越 精 三 郎

大 森 栄 一

横 川 美 智 子

山 田 光 生

金 田 雄 志

中 野 和 子

下 村 正 彦

山 田 光 生

金 田 雄 志

山 田 光 生

金 田 雄 志

山 田 光 生

金 田 雄 志

山 田 光 生

金 田 雄 志

山 田 光 生

金 田 雄 志

ハープ
ピアノ(副科)

吉野 篤子

片岡みどり

横井 逸郎
芝辻 宣雄

中木村邦子

矢田 暎子

志賀宗三郎

徳末 悦子

安部 圭子

中木村邦子

石橋 信子

内田 裕子

西川恵美子

安部 圭子

中木村邦子

伊奈 和子

南部 明子

在田 混子

安部 圭子

中木村邦子

出口美智子

羽田久美子

小林 とし

斎藤 秀雄

東儀 祐二

滝川栄津子

長崎 照子

山本 瑛子

若林 正史

吉永 清子

市川 伸子

梁瀬 律子

前田 道子

東儀 幸

川原 順子

山本 数子

沢村千栄子

碓 英子

日比野忠孝

米沢 宏

千葉みどり

福山 藍子

福山 藍子

三原 泰三

横井 逸郎

青柳 直子

長崎 照子

福山 藍子

大橋 博

中木村邦子

伊奈 和子

廣野 嗣雄

廣野 嗣雄

岡田 澄子

横井 逸郎

久保田清二

北山 隆

北山 隆

伴奏者 黒河内好子

久保田清二

北山 隆

北山 隆

伴奏者 黒河内好子

廣野 嗣雄

北山 隆

北山 隆

伴奏者 黒河内好子

若林 正史

若林 正史

若林 正史

伴奏者 黒河内好子

岩崎 勇

喜田 賦

喜田 賦

伴奏者 黒河内好子

喜田 賦

三原 泰三

三原 泰三

伴奏者 黒河内好子

三原 泰三

横井 逸郎

横井 逸郎

伴奏者 黒河内好子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

三原 泰三

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

平山久美子

平山久美子

伴奏者 小林美和子

横井 逸郎

堀井 寿子

堀井 寿子

伴奏者 小林美和子

管楽器(副科)

トランペット
フルート

椿 弘
伊藤 公一

北山 隆

増田 勝

オーボエ
クラリネット

岩崎 勇
喜田 賦

北山 隆

増田 勝

ファゴット

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

ホルン

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

管楽器(副科)

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

管楽器(副科)

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

管楽器(副科)

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

管楽器(副科)

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

管楽器(副科)

三原 泰三

北山 隆

増田 勝

△演奏旅行▽

昭和四十六年度演奏旅行は次の日程により行なわれた。

徳島公演

昭和四十六年度徳島県芸術祭協賛

十一月一日(月) 六時三十分 徳島市郷土文化会館

主催 相愛女子大学父兄会 相愛女子大学同窓会徳島支部

後援 徳島県教育委員会／県芸術祭執行委員会

徳島新聞社／四国放送

高知公演

昭和四十六年度高知県芸術祭参加

十一月四日(木) 六時三十分 高知市高新ホール

主催 相愛女子大学

後援 相愛女子大学同窓会高知支部

高松公演

第十四回香川県芸術祭協賛公演

十一月五日(金) 六時三十分 高松市民会館

主催 相愛女子大学同窓会香川県支部

後援 四国新聞社／西日本放送

曲目・出演者

I 合唱 指揮 林雄一郎・相愛女子大学音楽学部学生

1、讃 仏 偈 大橋 博 曲

2、組曲「遠い日のうた」 大 中 恩 曲

3、菜 の 花 //

4、祝 婚 歌 //

II 独 奏 ピアノ 向 井 滋 子

1、西風のみたもの ドビュッシー 曲

2、亜麻色の髪の乙女 //

3、花 火 //

III 管 弦 樂 指揮 東儀祐二・相愛オーケストラ

1、合奏協奏曲第一番 ピアノ 大谷千恵子

2、交響曲 第一〇番 軍隊、ハイドン 曲

△第十三回相愛オーケストラ定期演奏会▽

昭和四十六年十一月二十四日 午後六時

於 大阪厚生年金会館大ホール

I〔C組〕 1、合奏協奏曲 作品六 第七番 コレリリ 作曲

ピアノチェ・アレグロ・アダージョ 指揮 東儀祐二

アレグロ バイオリンI 森田玲子

アンダンテ・ラルゴ I 小林直子

アレグロ セロ 鈴木秀美

ビバーチェ チェンバロ 家村雅子

2、歌劇「アウリスのイフィゲニア」序曲 グルック 作曲

I〔A組〕 合奏協奏曲 第一番 指揮 酒井六雄

プレリユード 指揮 斎藤秀雄

ダージ ピアノ 大谷千恵子

パストラール・ルスティックダンス

フーガ

II〔B組〕 交響曲 第一〇番 長調「軍隊」 指揮 東儀祐二

アダージョ・アレグロ

アレグレット

メヌエット

フィナーレ：プレスト

Ⅳ〔B組〕交響詩 第三番 前奏曲

指揮 リ ス ト
東 儀 祐 二

〈演奏会〉

※室内楽の夕べ、が昭和四十六年五月二十二日、相愛講堂にて、相愛女子大学
主催により行なわれた。
出演者及び曲目

1. Quartett d-moll

für Blockflöte, 2 flöte und Bassooncontinuo

G. P. Telemann

Andante

Vivace

Largo

Allegro

Blockflöte 若 林 正 史
Flöte I 泰 間 〇 子
Flöte II 池 尻 幸 十 栄
Fagott 道 上 里 美
Cembalo 戎 洋 子

2. Piano Trio G-dur Op. 1 No. 2

Adagio. Allegro vivace

Largo con espressione

Allegro

Presto

V. Beethoven

Piano 沢 村 千 栄 子
Violin 吉 永 清 子
V. Cello 藤 田 淑 子

3. Madrigal Sonata

Poco Allegro

Moderato Allegro

B. Martinu

樂 隊

4. String Quartett F-dur Op. 96 *America*

Allegro ma non troppo

Lento

Molto vivace

Vivace ma non troppo

Piano 沢 村 千 栄 子
Flute 若 林 正 史
Violin 吉 永 清 子

A. Dvořák

Violin I 東 儀 幸
Violin II 吉 永 清 子
Viola 東 儀 祐 二
V. Cello 井 上 頼 豊

〈昭和四十六年夏季室内演奏会〉

六月九日(水)

I. Sonata for Violin and Piano op 24

Beethoven

Violin

小 形 啓 子

Piano

吉 田 紀 子

II. Concerto for Violin, Oboe and Piano

J. S. Bach

Violin

津 川 真 知 子

Oboe

佐 々 井 孝 子

伴奏

分 部 タ ッ

Ⅲ. 六つの子供の歌、より 鳥

*Tosca, *En non la sospiri

Puccini

Sop.

鈴 木 賀 代 子

伴奏

林 由 美 子

IV. Polonaise Fantasia Op. 61

Chopin

Piano

布 野 由 紀 子

V. Quartett Op.77 No. 1

Haydn

五 十

(1st, 2nd mov.)

六月十五日(火)

I. Concert No.3 Op.37
(1st mov.)

Beethoven
Piano
伴奏

喜多三和子
南部明子
(教員)

Violin I 田井美千代
Violin II 平山緑
Viola 真下和子
V. Cello 竹下明子

II. "Marriage of Figaro"
Duetto : Sull'aria Che Soave zeffiretto
Duettino : Via resti servita, madama
(Marcellina, Susanna)

Mozart

Sop 下村佐保子
Sop 杉田桂都恵
伴奏 黒河内好子
Schumann
Piano 宮本令子
Hasselmanns
Harp 上条庸子

III. Fantasie Op. 17
(2nd mov.)

Piano 宮本令子
Hasselmanns
Harp 上条庸子

IV. Concert Op. 16
(2nd and 3rd mov.)

Grieg
Piano 黒河内好子
伴奏 黒河内弘子

V. Sonata for Violin and Piano
K 378 B major

Mozart
Violin 田井美千代
Piano 宮木令子

VI. Saramouche

Milhaud
Its Piano 小原正恵
2nd Piano 小出素子

六月二十一日(月)

I. Concerto No. 2. in d minor.

MacDowell
Piano 吉田紀子
伴奏 小林美和子

II. Violin duet

Boccherini
Violin I 水穂摩早子
Violin II 小形啓子

III. Introduction
and Rond capriccioso Op. 28

Saint-Saens
Violin 曾我部千恵子
伴奏 小林美和子

IV. Barcarolle Op. 60

Piano 大田加代

V. Die Forelle
Frühlingsglanbe
Klänchensiedel

Schubert
Schubert
Schubert

西川潤子
吉田紀子

VI. Concert Op. 54. a minor.
(1st mov.)

Schumann
Piano 岡田彩子
伴奏 長谷川公子

VII. Concert No. 4
(1st mov.)

Beethoven
Piano 小林美和子
伴奏 吉田紀子

△新人演奏会(関西地区大学音楽学部昭和四十五年卒業生による)▽

本学関係の出演者及び曲目のみ

ソプラノ独唱

三宅千都

スメタナ作曲 オペラ「売られた花嫁」より

ピアノ伴奏 青木伴子

マレンカのアリア

〈卒業演奏会及び卒業論文発表会〉

◎昭和四十五年度相愛女子大学音楽学部
 〈卒業演奏会〉

昭和四十六年三月二十日、相愛講堂において開催された。

(出演者及び曲目)

辻 生恵	メゾソプラノ	ピアノ	田中 和子
藤 の 花	……………	団	伊玖磨
Cavaleria Lusticana よう	……………		
Vio lo sapete o mamma	……………	Mascani	
ソプラノ	……………	ピアノ	田中 和子
五つの子の断章より	朝明	……………	団 伊玖磨
Andrea Chénier よう	……………		
La mamma morta	……………	Giordano	
ピアノ	……………		
Fantasia op. 49	……………	Chopin	
ソプラノ、ピアノ	……………	渡辺 潤	信子
ひなの日は	……………	中田 喜直	
Ah! Je ris de me voir	……………	Gounod	
ソプラノ、ピアノ	……………	原 浪子	
II Trovatore	……………		
Dánor sull' ali rosee	……………	Verdi	
夜 想	……………	大中 恩	
ピアノ	……………		
Piano Sonata No. 3 op. 28	……………	Prokofieff	
ソプラノ	……………	ピアノ	西村 淳子
しぐれに寄する抒情	……………	大中 恩	
Louise 第3幕より	……………		
Depuis le jour	……………	Charpentier	
ソプラノ	……………	ピアノ	西村 淳子

彙 報

Die Schöpfung よう	……………	Haydn	
Nun deut die Flur das frische Grün	……………		
ピアノ	……………		
15 Variationen	……………	Beethoven	
Broica-Theme ; mit Puge op. 35	……………		
ソプラノ	……………	ピアノ	大谷由紀子
秘 唱	……………		平井康三郎
Aida よう	……………	Verdi	
ソプラノ	……………	ピアノ	田中 和子
六つの子供の歌より	おちすみ	……………	中田 喜直
I Capuleti ed i Montecchi よう	……………		
Oh! quante volte	……………	Bellini	
ピアノ	……………		
Poronaise-Fantaisie	……………	Chopin	
ソプラノ	……………	ピアノ	浦谷真知子
すずらん祭	……………	高田 三郎	
Lohengrin Elsas Traum	……………	Wagner	
ヴァイオリン	……………	ピアノ	山崎とみ子
Concerto No. 8	……………		
In the Form of a Vocal Scena	……………	Spohr	
ピアノ	……………		
Symphonische Etüden op. 13	……………	Schumann	
ソプラノ	……………	ピアノ	青木 伴子
鶯の卵より	……………		
張節婦詞 Tuma no Kotoba	……………	信時 潔	
Die Verkäufte Braut よう	……………		
Marenkas Aria	……………	Smetana	

昭和四十五年度相愛女子大学音楽学部
卒業論文発表会

日時 昭和四十六年三月二十日 午後二時より

場所 相愛女子大学七三五教室

司会 酒井 諄

一、挨拶

学部長 仲 芳樹

二、卒業論文発表

○ピアノ教授法における一考察

(理想的なレッスンのありかた)

小川 佳代子

○ムツィオ・クレメンティのピアノ・ソナタの特徴

倉成 信子

○ニーチェの音楽観

田中 真理子

○雅楽打物の研究

山下 早苗

(古楽書にあらわれたリズム形態を中心に)

吉田 末利子

三、音楽学演習Ⅱ報告

○春日若宮祭礼における祭と芸能について

金子 満里子

久岡 慶子

河島 登代

山下 早苗

米田 ひろみ

山田 久美子

馬場 佐知子

吉岡 万里子

△帰国▽

木川田 誠 (助教・音楽)

昭和四十四年八月より、音楽研究の為ドイツ、デットモルト音楽大学ヴァイ
センヴォルン教授のもとに留学中のところ四十六年五月帰国。

伊奈和子 (助教・ピアノ)

△留學▽

昭和四十六年五月一日より、ピアノ特別研修のため渡欧、西ドイツ、ミュンヘン音楽大学ではローズル・シュミット教授のもとで、又イタリーのポジターノではウィルヘルム・ケンプ教授のバートヴェンクラスでの研修を終え、九月三十日帰国。

金田雄志 (助手・作曲)

作曲研究の為、ポロランド、ワルシャワ国立高等音楽学校へ昭和四十六年九月より約一年月の予定で留学。

久保田 清二 (講師・オルガン)

オルガン音楽研究の為、西ドイツ、ウェストファーレン州立教会音楽学校へ、四十六年九月二十七日より一ケ年半の予定で留学。

△著書・研究論文発表及び学会発表▽

酒井 諄 (教授・音楽学)

研究論文「音楽における「運動」の問題―その形成原理の一つとしての―」

井島教授退官記念論文集(昭47・3出版予定)

研究発表

総合研究「近畿ならびにその影響下におけるわらべうたの音楽学的研究」と「研究概要」を発表(東洋音楽学会第二十二回大会昭和四十六年十月十七日於大阪音楽大学)。

佐藤 允彦 (助教・音楽学)

翻訳「シヨパンの手紙」昭和四十七年五月読書出版より出版予定。

小野 功龍 (講師・音楽学)

研究発表 総合研究「近畿ならびにその影響下におけるわらべうた研究」に(大阪の習俗・言語とわらべうた)と題して本学副手西島恵子と共に発表。

辻井英世(講師・音楽学)

論文 ○「芸術教育における自由と枠組」、音楽之友社『音楽教育研究』第十四卷第四号(71年4月号) 71年4月1日発行

○「抑止と進展の契機」(12音技法50年)、音楽之友社『音楽芸術』(71年9月号) 71年9月1日発行

○「モーツァルト」、CBSソニー・モーツァルト・ピアノ・ソナタ全集第二巻V解説書、SONC10414-71年6月発行

○「弦楽四重奏という形態についての一考察」CBSソニー・ベートーヴェン弦楽四重奏曲全集V解説書SONC30218-27、71年10月発行

作品楽譜

○ピアノのための「葉そよぎ」、カワイ楽譜『ピアノ通信』(71年月号) 71年月日発行

○女声とピアノのための「あえかなきざし」、音楽之友社『音楽芸術』(71年10月号) 別冊付録、17年10月1日発行

中山明慶(講師・音楽学)

研究論文 「J・S・バッハの教会カンタータの特質について」関西学院大学文学部美学論究第五篇、昭和四十六年三月二十日刊。

研究発表 昭和四十六年九月二十五日、関西音楽学研究所において、音楽学会関西支部第九十二回例会に「J・S・バッハの作品における拍子記号とテンポについて」と題して発表。

大谷紀美子(講師・音楽学)

研究発表 ○昭和四十六年六月五日、大阪教育大学において、音楽学会関西支部第九十回例会で、「記譜法の変遷(白符定量記譜法その1)」と題して発表。

○昭和四十六年十月十七日、大阪音楽大学においての東洋音楽学会第二十二回全国大会で、「朗誦の概念規定のための試論」(西島恵子音楽学副手と共同研究)と題して発表。

西島恵子(副手・音楽学)

○昭和四十六年十月十七日、東洋音楽学会第二十二回全国大会において、総合研究「近畿ならびにその影響下におけるわらべうた音楽学的研究」「近畿ならびに三重のわらべうた」(西島恵子と共同)と題して発表。

研究発表 ○昭和四十六年七月三日相愛女子大学における東洋音楽学会関西支部第四十九回例会にて「日本音楽における装飾について」と題して発表。

○昭和四十六年十月十七日、大阪音楽大学において、東洋音楽学会第二十二回全国大会で、「朗誦の概念規定のための試論」(大谷紀美子講師と共同)と題して発表。

○昭和四十六年十月十七日、大阪音楽大学において、東洋音楽学会第二十二回全国大会で総合研究「近畿ならびにその影響下におけるわらべうたの音楽学的研究」(「近畿ならびに三重のわらべうた」)―大谷紀美子と共同―と題して発表。

馬淵道江(副手・音楽学)

研究発表 ○昭和四十六年一月九日、音楽学会関西支部第八十八回例会(於同志社女子大学)において、「記譜法の歴史リユートグラフィックについて」と題して発表。

○昭和四十六年十月十七日、関西音楽学研究所における楽友会第百八十四回例会に「フランス音楽の美しさについて」と題して発表。

斎藤英美子(講師・語学)

研究論文 「イフィゲニー」と「ヘルマンとドロテマ」―表現様式からの比較―田中健二教授還暦記念ドイツ文学論集、昭和四十六年十一月刊。

久志本 秀夫(講師・語学)

研究論文 「フィレンツェ公会議のイタリア人文主義に与えた影響について(1)」「イタリア学会誌第二十号一九七一年刊。

研究発表 昭和四十六年十月十日、大阪外国語大学においてイタリア学会で、「フィレンツェ公会議のイタリア人文主義に与えた影響について」と題して発表。

△作品発表及びリサイタル▽

山田 光生(講師・作曲)

○歌曲、なんでもない風、白い淋しい梨の花(詩沢崎いそ子)とおきことのは(詩三好達治)三曲をソプラノ山田紀久子、ピアノ山田みつ代によって発表、昭和四十六年六月十九日於アテネフランセホール

○ピアノ曲、ロンディーノ、ひなたぼっこ二曲をピアノ山田みつ代により発表、昭和四十六年六月十九日於アテネフランセホール 以上は「アテネ・フランス音楽講座」主催による△Group 12・1新作展その三▽の演奏会による。

○合唱曲(女声三部)朝(花よりさきに)昼(也み)夕(陽炎と葬例)詩山崎樹朗(夏の一日より)を合唱日本室内合唱団指揮池本武代ピアノ今野彰子氏によって発表 昭和四十六年十月十四日於アテネフランセホール これはアテネフランセ音楽講座主催△Group 12・1新作展その五▽演奏会による。

伊奈 和子(助教授・ピアノ)

○昭和四十六年一月二十八日、京都労音の主権にて、ピアノリサイタルを開く。(於京都芸術会館)曲目はベートヴェンの三大ソナタ。

○同二月八日、姫路労音主催、ジョイントリサイタル。

○同三月二十四日、NHKラジオ、「午後のリサイタル」に出演。曲目は、ベートヴェンのファンタジー他。

内田 脛子(助教授・ピアノ)

○昭和四十六年十二月七日毎日ホール岡田晴美氏とジョイントリサイタルを行った。曲目は、シューマンの「ファンタジー」(作品17)、リストの「泉のほとり」、「超絶技巧練習曲第10番」。

滝川 富紀子(講師・ピアノ)

昭和四十六年十月七日、モーツァルト・サロンにおいて大阪音楽センター主催によるピアノ・リサイタルを行なった。曲目は、リストの二つの伝説、同、ソナタ短調。

木川田 誠(助教授・声楽)

昭和四十六年六月一日毎日ホールにおいて二期会関西支部主催のオペラ演奏会において、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」のフィガロ役で出演。

昭和四十六年九月二十三日、NHKFM放送の午後のリサイタルに出演。曲目はシューベルト、ヴォルフの歌曲(九曲)。

留学中においては、次のドイツの諸都市において、リサイタルを持った。ブランネンブルク、デットモルト、フェアスマルト、シェーナウ・イン・シュヴァルト・ヴァルト、ノイシュタット。また、帰国の折に、アメリカのカリフォルニア大学において、リサイタルを持った。曲目は、シューベルトの歌曲。

若林 正史(講師・フルート)

昭和四十六年十月十一日、御堂会館においてのフルート・リサイタルを行なった。曲目は、モーツァルトのソナタ、ヘ長調、ハ長調、J・S・バッハのソナタ、ト短調、E・プロツホの組曲「モダレ」、フォーレの幻想曲、シャミナードの小協奏曲、グリフェスの詩曲。

△昭和四十五年度相愛女子大学音楽学部 音楽学専攻卒業論文▽

小川 佳代子

ピアノ教授法における一考察

—理想的なレッスンのありかた—

北川 康子

テレマンのコンチェルトについて

—ターフェルムジークのコンチェルトを中心に—

倉成 信子

ムツィオ・クレメンティのピアノ・ソナタの特質

田中 真理子

ニーチェの音楽観

西村 直子

J. Haydn のピアノ・ソナタ

—ソナタ形式の第一主題について—

福島 真理

第二次世界大戦後の音楽の変遷

本田 加代子

プラトンに於ける音楽の理念

—イデア論に関連して—

山下 早苗

雅楽打物の研究

—古楽書にあらわれたリズム形態を中心に—

山本 素子

Chopin のマズルカについて

吉田 末利子

音楽演奏における、音の長さ及び休止の長さに関する弁別限〔I〕

米田 久美子

芸術の意義について

短大国文学科関係

○著書

田中 重太郎 教授

前田家本 枕冊子新註 古典文庫刊 昭和四十六年六月一日

四六三頁 定価三千八百円

清少納言枕冊子研究 笠間書院刊 昭和四十六年九月三十日

六六二頁 定価六千円

○論文

森本 茂 助教授

「伊勢物語『月やあらぬ』の歌の解釈」

（「解釈」昭和四十六年四月号）

「月やあらぬ」の歌の二つの「や」を、反語に解するか、疑問に解するか、両説が行われているが、疑問説に従う方が適切であろう。

「文学の旅—山陽本線とその周辺」

（「国文学」昭和四十六年六月臨時増刊号）

日本全土を対象にして、文学の旅を特集した中の分担原稿。

○文学遺蹟めぐり

国文学科では定例の文学遺蹟めぐりを、つぎのようにおこなった。

日 時—昭和四十六年十月二十一日(木) 午前八時半〜午後五時

目的地—飛鳥の里

コース—長堀駐車場—耳成山—藤原宮跡(鴨公小学校)—香久山—飛鳥寺(飛鳥大仏)—飛鳥浄御原宮(飛鳥小学校)—甘樫丘—石舞台—橘寺

—天武・持統陵—畝傍山—難波

参加者—二年 二二一名・一年 一六八名

引率教員—九名

○能楽鑑賞会

国文学科では定例の能楽鑑賞会を、つぎのようにおこなった。

日 時—昭和四十六年十二月十日(金)

場 所—大槻能楽堂(大阪市東区上町二番地)

演 題—能楽・鬘物「井筒」

狂言「武悪」

参加者—二年 二二一名・一年 一六八名

引率教員—九名

○昭和四十六年度開講科目・講義題目

〔教職専門科目〕

教育 原理	(二年)	寛田 知義 講師
教育心理学・青年心理学	(〃)	橘 覚勝 〃
国語科教育法	(二年)	森本 茂 助教授
教育 実習	(〃)	永田 千恵子 講師
道徳教育の研究	(〃)	秦 博 教授

〔体育〕

体育 講義	(二年)	上嶋 芳武 講師
体育 実技	(二年)	吉村 貞雄 〃

〔一般教育科目〕

宗 教 人生と宗教	(二年)	岡 邦俊 教授
〃 人生と仏教	(二年)	中西 智海 助教授
哲 学 哲学とは何か	(二年)	海 辺 忠治 教授
〃 真に人哲学するVとは何か	(〃)	池 田 善昭 講師
〃 思想史	(二年)	海 辺 忠治 教授
音 楽 生活と音楽	(〃)	仲 〃 芳樹 教授
〃 実技	(〃)	〃 〃 〃
歴 史 現代の歴史観	(二年)	木 場 集藏 講師
経 済 学 教養経済学	(〃)	河 村 宜介 〃
法 学 概論 規範の成立過程及び法規範の強制について	(二年)	山 野 正二 講師
法 学 日本国憲法の基本原理について	(〃)	〃 〃 〃
生 活 科学 生活科学	(二年)	山 本 勇 〃
〃 生物と生命	(二年)	中 村 治 〃
〃 〃	(〃)	浅 尾 哲朗 〃

〔外国語科目〕

英 語	(二年)	川 端 柳太郎 講師
-----	------	------------

〔専門科目〕

文学概論 詩的感覚—ヨーロッパの詩日本の詩—	(二年)	源 高根 講師
国文学概論	(二年)	田 中 重太郎 教授
国文学史I 中世・近世の日本文学史	(二年)	浅 田 善二郎 講師
国文学史II 近代文学史	(二年)	吉 田 孝次郎 教授
国文学講読 上代(万葉集)	(〃)	田 中 重太郎 〃

国文学講読 中古(枕冊子) (二年) 田中重太郎 教授

〃 中世(平家物語) (二年) 三谷幸子 講師

〃 近世(西鶴) (〃) 飯田正一 〃

〃 近代(近代小説) (〃) 中野恵海 助教授

〃 〃(近代詩歌) (二年) 山根賢吉 講師

国文学演習 中古(伊勢物語) (二年) 森本茂 助教授

〃 中世(方丈記) (二年) 草部了円 講師

〃 〃(謡曲) (〃) 三谷幸子 〃

国文学特殊講義 俳文学 (〃) 松岡満夫 〃

〃 近代文学 (〃) 中野恵海 助教授

国語学概論 (二年) 吉田金彦 講師

国語史 奈良・平安時代 (〃) 門前正彦 〃

国語表現法 (二年) 難波喜造 〃

国語学演習 文法 (二年) 柿谷雄三 助教授

〃 源氏物語 (二年) 寛久美子 講師

漢文学史 中国小説史 (二年) 南部松雄 〃

漢文講読 詩文精粹 (二年) 平秀道 〃

〃 六朝小説 (二年) 榑原孝 〃

言語学 言語学の根本問題 (二年) 宮重万寿子 〃

書道 「かな」(初歩から作品迄) (二年) 宮重万寿子 〃

国文学研究科

上代文学講読 (万葉集) 阪口保 講師

中古文学演習 (讃岐典侍日記) 三谷幸子 〃

近代文学講読 (夏目漱石) 吉田孝次郎 教授

書道 (書道史・実習) 古田嘉雄 講師

短大家政学科関係 (食物専攻・被服専攻)

〇著書

木下邦夫 講師

「暮しの工学」 A5判 二九四頁

昭和四十六年 四月十五日刊 啓学出版

日本図書館協会選定図書となった。

〇学会発表

小原国彦 教授

玉置ミヨ子 助手

一、第三十五回日本家政学会関西支部研究発表会において講演(於 大阪市)

(昭和四十六年五月二十九日)

演題 「炭化水素資化性酵母KY-11生育時のCO₂阻害の除去に関する研究」

二、第十八回日本栄養改善学会において講演(於 熊本市)

(昭和四十六年十一月五日)

演題 「クロレラ利用法の一考察」

村上裕子 助教授

第十八回日本栄養改善学会要旨に掲載(昭和四十六年十一月五日)

題目 「すまし汁の汁温による塩味の変化について」

〇論文・評論・作品発表

山本登美子 教授

一、「ファッションのコミュニケーション(ショーウィンドを中心として)」

衣生活：昭和四十六年六月号に掲載

二、作品発表 (一)：昭和四十六年三月、毎日ホールにおいて

日本デザイン文化協会主催

(二)：昭和四十六年九月、フェスティバル・ホールにおいて

日本デザイン文化協会主催

○会社見学 (被服専攻学生)

学生の補修授業として、恒例の被服関係会社見学を次のように行なった。

月 日……昭和四十六年十月十九日(火)

見学先……(一年生) KKK川島織物、京都友禅文化会館

(二年生) 第一班 KKWワコール、京都友禅文化会館

第二班 大同マルタ染工KKK、京都友禅文化会館

学 生……一年生一九六名、二年生一九六名

引率教員……十二名

一同は八台のバスに分乗し、午前八時半京都に向った。それぞれの会社において、被服学・染色学・被服構成・衣料学などの関係の実地見学をして、今後の勉学に大いに役立った。特に京都友禅文化会館においては、映画と実地の両面から優美な友禅の知識を学ぶことができた。昼食は景勝地嵐山の山水を眺めながら、午後五時前、一同無事に学校付近にて解散した。

○会社見学 (食物専攻学生)

食物専攻では食品工場見学会を左記の如く行った。

日 時 昭和四十六年十一月二十日(土)

午前九時～午後五時

見学先 一年 大醬(いずみいち醬油)堺工場、タマノ井酢奈良工場

二年 日本水産伊丹工場、武田食品伊丹工場、朝日ビール吹田工場

食物専攻学生三四二名、引率教員十名、八台のバスに分乗し、一チーム約一〇〇名単位で各々食品工場を順次見学を行い、食品が実際にどのようにして製造されているかを知ると共に、原理と実際の相関々係を追求して、食品製造に関する

諸種の留意事項を学びとり、難波にて午後五時頃解散。有意義な一日を終えた。学生からの質問も活発で、見学し乍ら気のついたことを熱心にノートする態度は会社側の人々の注意をひいたようである。

○昭和四十六年度開講科目・講義題目

〔一般教育科目〕

宗 教	人生と宗教	(一年)	中西智海	助教
哲 学	人生と仏教	(二年)	海 辺 忠 治	教 授
	哲学とは何か	(一年)	池 田 善 昭	講 師
	真に人哲学するVとは何か	(〃)	池 田 善 昭	講 師
	思想史	(〃)	西 村 恵 信	〃
	西洋哲学史	(二年)	海 辺 忠 治	教 授
文 学	近代文学作品研究	(〃)	池 田 善 昭	講 師
	清少納言とその文学	(〃)	西 村 恵 信	〃
	近代詩文	(〃)	池 田 善 昭	講 師
音 楽	生活と音楽	(一年)	古 田 嘉 雄	〃
	実技	(〃)	中 野 恵 海	助 教 授
社 会 学	社会学概論	(〃)	柿 谷 雄 三	〃
経 済 学	社会経済学	(〃)	吉 田 弥 寿 夫	講 師
法 学	規範の成立過程及び法規範の強制について	(二年)	仲 芳 樹	教 授
	法学概論	(〃)	河 村 宜 介	〃
	日本国憲法	(〃)	山 野 正 二	〃
生活科学	〃	(〃)	中 山 勲	〃
	〃	(〃)	古 林 稔	〃
	〃	(〃)	山 本 勇	〃

化学 一般化学・有機化学・生化学 (二年) 田中昭子 講師
 〃 化学概説 (〃) 川合浩一 〃
 生物学 一般物理学 (二年) 田中昭子 〃
 〃 生物学と生命 (二年) 浅尾哲朗 〃

〔専門教育科目〕

家庭経営 (食物) (二年) 塩野緑子 教授
 〃 (被服) (〃) 神田美年子 〃
 〃 (〃) (〃) 森山和美 講師
 〃 (二年) 庄司ユリ子 〃

家族関係 現代の家族法―婚姻、親子関係を中心として― (〃) 松岡博 〃
 〃 実習 (二年) 麻生久弥 〃

住居学 (被服) (二年) 飯塚義富 〃
 〃 (食物) (二年) 和原重道 講師

栄養学 家政学のための栄養学 (〃) 和原重道 講師
 〃 乳幼児栄養 (二年) 和原重道 講師

栄養生理学 生化学 (〃) 鏡山博行 〃
 〃 (〃) 和原重道 講師

栄養病理学 生化学 (〃) 鏡山博行 〃
 〃 (〃) 和原重道 講師

〃 (〃) 和原重道 講師
 〃 (〃) 和原重道 講師

〃 (〃) 和原重道 講師
 〃 (〃) 和原重道 講師

〃 (〃) 和原重道 講師
 〃 (〃) 和原重道 講師

〃 (〃) 和原重道 講師
 〃 (〃) 和原重道 講師

〃 (〃) 和原重道 講師
 〃 (〃) 和原重道 講師

食品加工貯蔵 食品の加工と貯蔵に関する原理と方法 (二年) 小原国彦 教授

食品学実習 食品に関する実習 (二年) 小原国彦 教授
 〃 衛生学 現代日本における育児についての諸問題 (〃) 普原重道 講師
 〃 衛生学Ⅰ 衛生行政・衛生統計・母子衛生・学校保健 (二年) 辻勝流 〃

衛生学Ⅱ 疾病予防・環境衛生・公害 (二年) 木村慶 〃
 〃 公衆衛生学 食品衛生の考え方 (〃) 飯淵康雄 〃
 〃 食品衛生学 食品衛生法の解説及び食中毒と経口伝染病 (〃) 磯部龍馬 〃

栄養指導 栄養指導理論 (二年) 村上裕子 助教
 〃 栄養指導理論及び実演 (二年) 村上裕子 助教

給食管理 集団給食の管理・理論及び実習 (二年) 〃 〃
 〃 調理管理 調理理論と基礎調理の実習 (食物) (二年) 林崎つゆ 〃

調理理論と応用調理の実習 (〃) (二年) 塩野緑子 教授
 〃 調理理論と実習 (被服) (〃) 村上裕子 助教

調理科学 (〃) 林崎つゆ 〃
 〃 食糧経済 (〃) 荒川幸香 講師

育児 育児学一般 (〃) 高柳泰子 〃
 〃 社会福祉 (〃) 富田康治 〃

学校保健Ⅰ (〃) 西村文男 〃
 〃 学校保健Ⅱ 疾病の予防と看護 (一・二年) 中垣昌美 〃

生理学 被服の素となる原材料学概説 (食物) (二年) 高階義登 〃
 〃 衣料学 (二年) 富田朋介 〃

白取吉敏 教授

衣料学 纖維製品に関する原材料学(被服)

(二年) 白取吉敏 教授

教育原理
教育心理学

(二年) 秦博 教授
(〃) 橘覚勝 講師
(〃) 糸魚川直裕 〃

被服の素となる原材料学概説(食物)

(〃) 遠藤啓 講師

教科教育法 家庭科教育法

(二年) 塩野緑子 教授
(〃) 北島タキ 講師

被服学 被服原論と被服用素材(被服)

(二年) 白取吉敏 教授

保健科教育法

(〃) 上田照代 〃

被服に関する重要諸科学の概説(食物)

(〃) 〃 〃

教育実習 道徳教育の研究

(〃) 永田千恵子 〃
(〃) 乾隆次 〃
(〃) 寛田知義 〃

染色学 消費面よりみた被服

(〃) 鈴木国夫 助教授

〔外国語〕

(二年) 大西昭男 講師
(〃) 上山泰 〃

染色学 染色学及び実習

(〃) 遠藤啓 講師

英語

(二年) 上嶋芳武 講師
(〃) 吉村貞雄 〃

被服整理学

染色学概説

(二年) 鈴木国夫 助教授

〔体育〕

体育講義 生活と体育

意匠学 界面活性剤の生活への応用

(二年) 伊藤澄子 講師

体育実技

(二年) 上嶋芳武 講師
(〃) 吉村貞雄 〃

服飾美学 服飾デザイン

(二年) 山本富佐子 〃

被服史 日本の服飾発展史

(二年) 手塚唯聴 〃

△短大人事関係▽

短大部長 海辺忠治 教授 昭和四十六年十月一日
教務主任 森本茂 助教授 昭和四十六年十月一日
学生主任 神田美年子 教授 昭和四十六年十月一日
国文学科科长 田中重太郎 教授 昭和四十六年十月一日
家政学科科长 和田政雄 教授 昭和四十六年十月一日

被服構成及び実習 和裁

(二・二年) 森山和美 〃
(〃) 渡辺かねみ 〃
(二年) 森重定子 〃
(〃) 岡村キミノ 〃
(〃) 山本登美子 教授
(二年) 神田美年子 〃
(〃) 二木久枝 講師
(二年) 山住とし子 〃

手芸 洋裁(被服)

(二年) 山住とし子 〃

家庭機械及び家庭電気

(二年) 山下邦夫 〃

くらしの工学

(二年) 木下邦夫 〃

〔教職専門科目〕

教育原理 教育学概論

教授 山本登美子 昭和四十六年四月一日
助教授 渡辺かねみ 昭和四十六年二月二十五日
助教授 林崎つゆ 昭和四十六年四月一日
助教授 村上裕子 昭和四十六年四月一日

教育原理 教育学概論

(二年) 乾隆次 講師

教授 山本登美子 昭和四十六年四月一日
助教授 渡辺かねみ 昭和四十六年二月二十五日
助教授 林崎つゆ 昭和四十六年四月一日
助教授 村上裕子 昭和四十六年四月一日

〔教職専門科目〕

教育原理 教育学概論

教授 山本登美子 昭和四十六年四月一日
助教授 渡辺かねみ 昭和四十六年二月二十五日
助教授 林崎つゆ 昭和四十六年四月一日
助教授 村上裕子 昭和四十六年四月一日

○新任

教授 吉田 孝次郎 昭和四十六年四月一日

助手補山本美子 昭和四十六年四月一日

助手補安東千賀子 昭和四十六年四月一日

助手補泉谷和佐子 昭和四十六年四月一日

○退職

教授 富田 朋介 昭和四十六年三月三十一日

教授 橘 覚勝 昭和四十六年三月三十一日

助教 渡辺 かねみ 昭和四十六年三月三十一日

講師 品川 三郎 昭和四十六年七月三日

助手 橋本 道子 昭和四十六年三月三十一日

助手 飯田 加代子 昭和四十六年三月三十一日

助手 補奥村 啓子 昭和四十六年三月三十一日